

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院 緩和ケアチーム VOL.5 2011年 8月号

文責：玉田 末明・寺下 美智子 編集：小木曾 理佐

* 緩和ケアチーム スタッフ紹介 *



玉田 末明

こんにちは。リハビリテーション科に所属しております、理学療法士の玉田です。緩和ケアに携わるようになって3年目になります。
僕が就職したのが18年前になりますが、その頃に比べるとリハビリの対象は確実に拡大しています。当時は整形外科、脳神経外科、神経内科からの処方ほとんどで、その他の診療科から処方できることは滅多にありませんでした。それが、今ではほとんどの診療科から処方を頂けるようになり、リハビリの内容も単なる筋力向上や歩行訓練だけでなく、呼吸リハビリや心臓リハビリなど拡大しています。そんな中で、緩和ケアでのリハビリも近年盛んに取り上げられるようになり、当院でもチームに参加して介入するようになっています。
リハビリのイメージは、どうしても「苦痛に耐えてがんばらない」というのがあると思いますがそうではなく、「苦痛を少しでもやわらげるためには、どうすれば良いか」ということを考えていかなければいけません。緩和ケアにおいても患者さんの苦痛をやわらげ、QOLを向上するために少しでもお役にたてればと思っております。



寺下 美智子

はじめまして。リハビリテーション科、作業療法士の寺下 美智子です。緩和ケアチームのメンバーとなって3年ほどになります。
緩和ケアチームは、主治医からコンサルテーションのあった方に対して、深く検討し、苦痛緩和を推し進める役割を担っています。チーム会議の中において、リハビリが、作業療法が何を実行できるのかしら？と悩ましく思うことがしょっちゅうです。チーム依頼となる方の多くは、疼痛の緩和治療や、プロフェッショナルな看護ケア面でチーム介入により、効果を上げています。そのように、全身状態が少しでも整うと、リハビリ介入有用性が見えてくるように思われます。近い将来は、診断時からの緩和ケアが浸透していき、緩和ケアチーム対象者の広がりが進んでいくのではと期待しています。
熟年な私ですが、緩和ケアでは未熟ですので、全国に緩和ケアに関心のある作業療法士が集う研究会において、情報収集を心がけているところです。どうぞ宜しくお願いいたします。

9月の勉強会予定

8日 第3回緩和ケア勉強会

時間：18時～19時半

場所：中央診療棟3階講堂

内容：がん疼痛の事例検討（緩和ケア病棟看護師：奥村 あすか）

緩和ケアチームスタッフからのお話

（がん性疼痛看護認定看護師：大津 陽子）

（がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師・緩和ケア病棟師長：山本 知枝子）

